	たつみ　あきのぶ
氏　　名	辰 巳　晃 伸
学位(専攻分野)	博　　士 （ 学 術 ）
学 位 記 番 号	博 甲 第 ２ ９ ７ 号
学位授与の日付	平成 15 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規程第３条第３項該当
研 究 科 ・ 専 攻	工芸科学研究科　機能科学専攻
学 位 論 文 題 目	インスタレーションの成立と展開 － 1960-70 年代のアメリカのアートにおけるネオアヴァンギャルドをめぐって－
審　査　委　員	(主査) 教　授　太田　喬夫 教　授　並木　誠士 教　授　太谷　芳夫

論文内容の要旨

「インスタレーション」とは、英語の install という動詞の名詞形である。芸術の文脈では、絵画を掛ける、彫刻を置くというように「展覧会場に作品を設置する行為」を意味する。本来、インスタレーションは、美術館の展覧会の準備におけるキュレーターの仕事であった。しかし現在では、芸術家にとってはアトリエでの制作以上に、現場での作品設置は重要な政策のプロセスである。現代の芸術家の多くは、自分の作品がどのような場所に置かれ、どのような条件で見られるかに大きな関心を持っている。

本論文は、「インスタレーション」とは何か。その成立と展開はどのようなものであったのか。その特色と意義･問題点は何か。このような問いを 1960 年代および 70 年代のアメリカのアヴァンギャルドの展開に即して、主に芸術家と批評家の批評言説の読解により明らかにしようとした。本論文は、序章と３章および終章から構成されている。

序章では、論文の目的、「インスタレーション」概念の定義、先行研究およびモダニズム芸術の特性について言及されている。

第１章では、「インスタレーション」の成立の前段階として 1950 年代末から 60 年代初頭のネオダダおよびポップアートと「インスタレーション」との関係が論じられる。まず、カプローの言う「インヴァイラメント」が「インスタレーション」のひとつの起源とみなされる。また、デュシャンの「レディメイド」とシュヴィッタースの「メルツ・バウ」が、さらに、キースラーの「展示デザイン」も「インスタレーション」の重要な起源とみなされる。これら三つの源からの展開として「ポップアート」が「生活の環境」を造形化する方向に「インスタレーション」の前段階、すなわち「プレ・インスタレーション」とでもいうべきものが成立したことが論証される。

第２章では、60 年代中頃から 70 年代初頭にかけてのミニマリズムと 60 年代末から 70 年代中頃にかけてのポストミニマリズムに注目し、これらのアートの運動と「インスタレーション」との関係を問う。その結果、「インスタレーション」は、60 年代後半、ミニマリズムにおいて成立し、70 年代前半、ポスト･ミニマリズムにおいてさらなる展開を遂げたことが明らかにされる。ここでは「サイト・スペシフィティ」がキーワードとなる。M.フリードのいう「演劇性」から「サ

イト・スペシフィティ」への展開に「インスタレーション」の成立を位置付け、さらにオブジェと物理的な場の特定性から、もはや形のないものの観念的な場の特定性に「インスタレーション」の更なる展開を読みとろうとした。ここでは近代の制度としての美術館も問題とされる。

第３章ではアート＆テクノロジーによる映像のインスタレーションが取り上げられる。ここでは「インタラクティヴィティ」（相互作用性）がキーワードとなる。芸術が科学技術と融合することにより、「関係の中で事物を見ること」が重視される。

終章では、これまでの論文の展開の趣旨と成果、問題点が要約される。

論文審査の結果の要旨

多義的であいまいな概念でありながら、現代アートについて語るときには「インスタレーション」の問題は、避けて通れない重要性を持っている。しかし、従来、インスタレーションについての研究は、展示デザインやミニマルアートや個々の芸術現象との関連でなされることがほとんどで、「インスタレーション」の成立と展開を、そしてその意義を総合的に解明しようとした研究はほとんどない。本論文は、膨大な文献資料を扱い、「インスタレーション」の歴史的な展開を主に三つの時期に分け、また、その意味を「生活環境」「サイト・スペシフィティ」「インタラクティヴィティ」という三つのキーワードによって明らかにした。さらに、その具体的な特色を 60 年代および 70 年代のアメリカのアートに即して明らかにした。これらの点は、従来の研究には見られない独創的で優れた成果であるとみなすことができる。ミニマリズムからポストミニマリズムへの転換は、モダニズムからポストモダニズムへの転換期とも重なることが、「サイト・スペシフィティ」の意味の変容からも実証した点も評価できる。さらに、美術館やパブリック・アートなど近代の芸術制度の問題を考える場合にも、「インスタレーション」の歴史と問題が密接に関係していることが、明らかにされた点も評価できる。

本研究の内容は、学術学会誌の査読論文２編（下記①、②として公表されている。

① 辰巳晃伸「ミニマル･アートと場- ジャッドとモリスを巡って」意匠学会誌『デザイン理論』39 号、pp.71-84.,2000.

② 辰巳晃伸「ポストミニマリズムと場」美学会誌『美学』205 号、pp.56-69.,2001.